

貸 借 対 照 表

(2022年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部	16,511,801	負債の部	6,062,908
流動資産	10,388,088	流動負債	3,721,731
現金及び預金	176,859	買掛金	2,056,261
グループ内預入金	4,252,277	短期借入金	340
受取手形	54,468	リース債務	54,649
売掛金	3,998,536	未払金	409,366
商品及び製品	329,475	未払費用	314,971
原材料及び貯蔵品	527,878	未払法人税等	215,244
仕掛品	915,431	未払消費税	124,154
リース投資資産	85,214	前受金	18,518
未収入金	62,213	前受収益	517
その他の他	42,011	預り金	29,406
貸倒引当金	△ 56,279	賞与引当金	472,966
固定資産	6,123,713	役員賞与引当金	25,334
有形固定資産	4,320,670	固定負債	2,341,177
建物	1,944,222	退職給付引当金	2,165,732
構築物	38,204	長期前受収益	103
機械装置	160,740	リース債務	163,230
車輛運搬具	0	長期預り金	10,000
工具器具備品	168,847	その他固定負債	2,110
土地	1,759,641	純資産の部	10,448,892
リース資産	200,666	株主資本	10,507,444
建設仮勘定	42,544	資本金	327,220
一括償却資産	5,803	資本剰余金	5,007,688
無形固定資産	165,776	資本準備金	5,555
電話加入権	7,316	その他資本剰余金	5,002,133
商標権	354	利益剰余金	5,172,536
ソフトウェア	158,105	利益準備金	76,250
投資その他の資産	1,637,265	その他利益剰余金	5,096,286
投資有価証券	661,846	別途積立金	3,049,967
関係会社株式	2,000	繰越利益剰余金	2,046,319
繰延税金資産	904,082	(うち当期純利益)	(442,226)
その他の他	94,006	評価・換算差額等	△ 58,551
貸倒引当金	△ 24,670	その他有価証券評価差額金	△ 58,551
合 計	16,511,801	合 計	16,511,801

個別注記表

〔 2021年 4月 1日 から
2022年 3月31日 まで 〕

1 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

a 有価証券の評価基準及び評価方法

(a) 時価のあるもの

当事業年度末日の市場価格等に基づく時価法によっている。
(評価差額は全部純資産直入法によって処理している)

(b) 時価のないもの

移動平均法による原価法によっている。

b 棚卸資産の評価基準及び評価方法

(a) 量産品及び計器修理品は総平均法による原価法によっている。

(b) 個別受注品は個別法による原価法によっている。

なお、原価法については、貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定している。

(2) 固定資産の減価償却の方法

a 有形固定資産

定額法によっている。

b 無形固定資産

定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

a 貸倒引当金

売掛債権等の貸倒れ損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収の可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。

b 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき計上している。

c 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき計上している。

d 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりである。

(a) 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっている。

(b) 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の上事業年度から費用処理している。

(4) 収益及び費用の計上基準

商品又は製品の販売に係る収益は、主に卸売又は製造等による販売であり、顧客との販売契約に基づいて商品又は製品を引き渡す履行義務を負っている。当該履行義務は、商品又は製品を引き渡す一時点において、顧客が当該商品又は製品に対する支配を獲得して充足されると判断し、引渡時点で収益を認識している。

(5) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっている。